

α 共通問題 方程式と不等式

- (1) $2(x+2)-3(-x+3)$
 $= 2x+4+3x-9$
 $= 5x-5$
- (2) $(2x-1)(3x+4)$
 $= 6x^2+5x-4$
- (3) $2x^2+x-21$
 $= (2x+7)(x-3)$
- (4) $\sqrt{27}-\sqrt{300}+\sqrt{12}$
 $= 3\sqrt{3}-10\sqrt{3}+2\sqrt{3}$
 $= -5\sqrt{3}$
- (5) $6(x-2) < 7x$
 $6x-12 < 7x$
 $6x-7x < 12$
 $-x < 12$
したがって
 $x > -12$
- (6) $2x^2-5x+1=0$
 $x = \frac{-(-5) \pm \sqrt{(-5)^2-4 \times 2 \times 1}}{2 \times 2}$
 $= \frac{5 \pm \sqrt{17}}{4}$
- (7) $\frac{2\sqrt{5}}{\sqrt{5}-\sqrt{3}} = \frac{2\sqrt{5}(\sqrt{5}+\sqrt{3})}{(\sqrt{5}-\sqrt{3})(\sqrt{5}+\sqrt{3})}$
 $= \frac{2\sqrt{5}(\sqrt{5}+\sqrt{3})}{5-3}$
 $= \frac{2(5+\sqrt{15})}{2}$
 $= 5+\sqrt{15}$
- (8) $3a^2b \times (-2b)^3$
 $= 3a^2b \times (-8b^3)$
 $= -24a^2b^4$
- (9) たての長さを x cm とすると、横の長さは、
 $(12-x)$ cm 
辺の長さは正なので
 $x > 0, 12-x > 0$
よって、 $0 < x < 12$
また、たてが横より長いので
 $x > 12-x$ より $x > 6$
したがって $6 < x < 12 \dots \textcircled{1}$
長方形の面積が 35 cm^2 だから、

$$x(12-x) = 35$$

$$x^2-12x+35=0$$

$$(x-7)(x-5)=0$$

$$x=7, 5$$

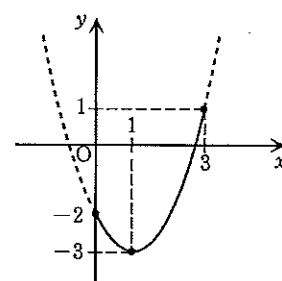
①より $x=7$

ゆえに たての長さは 7 cm $\textcircled{10}$

α 選択問題

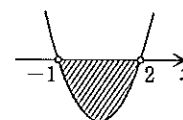
[α-1] 2次関数

- (1) 2次関数 $y=ax^2$ のグラフを x 軸方向に p 、 y 軸方向に q だけ平行移動したものは、2次関数 $y=a(x-p)^2+q$ であるから、求める2次関数は $y=(x-2)^2+3$ よって $\{1\}$
- (2) 2次関数 $y=-(x-2)^2-4$ のグラフの頂点の座標は、 $(2, -4)$
- (3) 2次関数 $y=x^2-5x-24$ のグラフと x 軸との共有点の x 座標は、 $y=0$ として
 $x^2-5x-24=0$
 $(x-8)(x+3)=0$
 $x=8, -3$
- (4) $y=x^2-2x-2$ を変形すると
 $y=(x-1)^2-3$ となるので、
2次関数 $y=x^2-2x-2$ の $0 \leq x \leq 3$ におけるグラフは図のようになる。



よって、 $x=1$ のとき
最小値 -3

- (5) $(x+1)(x-2) < 0$ より
 $-1 < x < 2$



[α-2] 図形と計量

(1) 図より $\cos A = \frac{AB}{AC} = \frac{5}{7}$

(2) $\cos 30^\circ \times \tan 150^\circ$
 $= \frac{\sqrt{3}}{2} \times \left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right)$
 $= -\frac{1}{2}$

(3) $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ より
 $\sin^2 60^\circ + \cos^2 60^\circ = 1$

(4) $\triangle ABC$ の面積は、

$$\frac{1}{2} \times AB \times BC \times \sin B$$

$$= \frac{1}{2} \times 6 \times 5 \times \sin 150^\circ$$

$$= \frac{1}{2} \times 6 \times 5 \times \frac{1}{2}$$

$$= \frac{15}{2}$$

(5) 正弦定理より、

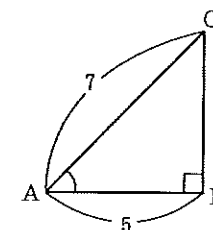
$$\frac{BC}{\sin 30^\circ} = \frac{3\sqrt{2}}{\sin 45^\circ}$$

$$BC = \frac{3\sqrt{2} \sin 30^\circ}{\sin 45^\circ}$$

$$= 3\sqrt{2} \times \frac{1}{2} \div \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$= 3\sqrt{2} \times \frac{1}{2} \times \sqrt{2}$$

$$= 3$$



【別解】

右図のように頂点 B から辺 AC におろした垂線の足を D とする。

$\triangle ABD$ は、 $30^\circ, 60^\circ, 90^\circ$ の直角三角形であるから、

$AB:BD = 2:1$ より

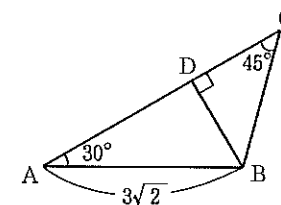
$$2BD = AB$$

$$BD = \frac{1}{2}AB = \frac{1}{2} \times 3\sqrt{2} = \frac{3\sqrt{2}}{2}$$

$\triangle BCD$ は、 $45^\circ, 45^\circ, 90^\circ$ の直角三角形であるから、

$BC:BD = \sqrt{2}:1$ より

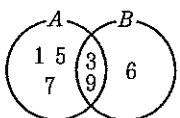
$$BC = \sqrt{2}BD = \sqrt{2} \times \frac{3\sqrt{2}}{2} = \frac{6}{2} = 3$$



[α-3] 平面図形

- (1) 三角形の3つの内角の二等分線の交点は、内接円の中心であるから「内心」である。 b
- (2) 角の二等分線と線分の比の性質より
 $BD:DC = AB:AC = 5:3$
 $CD = x$ とすると $BD = 6-x$ だから
 $(6-x):x = 5:3$
 $5x = 3(6-x)$
 $8x = 18$
 $x = \frac{18}{8} = \frac{9}{4}$
 よって
 $CD = \frac{9}{4}$
- (3) $\triangle BCD$ で辺 BD が円の直径であるから、
 $\angle BCD = 90^\circ$
 したがって $\angle BDC = 90^\circ - 35^\circ = 55^\circ$
 同じ弧 BC に対する円周角は等しいので
 $\alpha = \angle BDC = 55^\circ$
- (4) $\triangle OAB$, $\triangle OBC$, $\triangle OCA$ はすべて点 O を頂点とする二等辺三角形であるから、
 $\angle OBA = 30^\circ$, $\angle OCB = \alpha$, $\angle OAC = 20^\circ$
 $\triangle ABC$ の内角の和は 180° であるから、
 $2\alpha + 2 \times 30^\circ + 2 \times 20^\circ = 180^\circ$
 $2\alpha = 80^\circ$
 $\alpha = 40^\circ$
- (5) $\angle BAC = 180^\circ - (65^\circ + 32^\circ) = 83^\circ$
 円の接線と弦のつくる角の性質より
 $\angle PBC = \angle BAC = 83^\circ$
 $\angle PCB = \angle BAC = 83^\circ$
 $\alpha = 180^\circ - (83^\circ + 83^\circ) = 14^\circ$

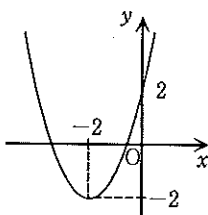
[α-4] 集合と論理

- (1) $A \cap B = \{3, 9\}$
- 
- (2) 100以下の自然数で、5の倍数の集合を A , 7の倍数の集合を B とする。
 $A = \{5 \times 1, 5 \times 2, \dots, 5 \times 20\}$ より
 $n(A) = 20$
 $B = \{7 \times 1, 7 \times 2, \dots, 7 \times 14\}$ より
 $n(B) = 14$
 また、 $A \cap B$ は 35の倍数の集合なので、
 $A \cap B = \{35 \times 1, 35 \times 2\}$ より
 $n(A \cap B) = 2$
 求める個数は、 $A \cup B$ の要素の個数なので、
 $n(A \cup B) = n(A) + n(B) - n(A \cap B)$
 $= 20 + 14 - 2$
 $= 32$ (個)
- (3) (ア) $[x^2 - x - 2 = 0 \text{ ならば, } x = -1 \text{ である}]$ は偽
 (反例) $x = 2$ のとき $x^2 - x - 2 = 0$ は成り立つ。
 (イ) $[am = bm \text{ ならば, } a = b \text{ である}]$ は偽
 (反例) $m = 0, a = 1, b = 2$ のとき $am = bm$ は成り立つが、 $a = b$ は成り立たない。
 (ウ) $[a^2 + b^2 = 0 \text{ ならば, } a = b = 0 \text{ である}]$ は真
 (エ) $\{x | 1 < x < 2\} \subset \{x | 0 < x < 3\}$ より
 $[1 < x < 2 \text{ ならば, } 0 < x < 3 \text{ である}]$ は真
 よって真であるものは (ウ) と (エ)
- (4) 2つの条件を $p: x = 5, q: x^2 = 25$ とするとき、
 $p \Rightarrow q$ は真であるが、 $q \Rightarrow p$ は偽 (反例 $x = -5$) である。
 したがって、 p は q であるための十分条件であるが必要条件ではないので (イ)
- (5) 命題「 n が偶数ならば、 n^2 は偶数である。」
 の対偶は、
「 n^2 が奇数ならば、 n は奇数である。」

[α-5] 場合の数と確率

- (1) (大きいさいころの目, 小さいさいころの目) と表すと、目の和が7になる場合は、 $(1, 6), (2, 5), (3, 4), (4, 3), (5, 2), (6, 1)$ の 6通り
- (2) 項の数は積の法則を使って、
 $3 \times 4 = 12$
- (3) 男子の委員の選び方が ${}_5C_1$ 通りで、そのおののに対して女子の委員の選び方が ${}_6C_1$ 通りずつあるから
 ${}_5C_1 \times {}_6C_1 = 5 \times 6 = 30$ (通り)
- (4) くじの引き方は 10通りで、当たりくじはそのうちの2通りだから、当たりくじを引く確率は
 $\frac{2}{10} = \frac{1}{5}$
- (5) 10個の球が入っている袋から同時に3個の球を取り出す場合は ${}_{10}C_3$ 通りで、そのうち、白球2個と赤球1個を取る場合は ${}_6C_2 \times {}_4C_1$ 通りあるから求める確率は
 $\frac{{}_6C_2 \times {}_4C_1}{{}_{10}C_3} = \frac{60}{120} = \frac{1}{2}$

[α-6] 2次関数 (2次不等式は除く)

- (1) $f(x) = 3x^2 - 2$ より
 $f(-1) = 3 \cdot (-1)^2 - 2$
 $= 3 - 2$
 $= 1$
- (2) 円の面積は $\pi \times (\text{円の半径})^2$ であるから
 $y = \pi \times \left(\frac{x}{2}\right)^2$ より
 $y = \frac{\pi}{4}x^2$
- (3) 頂点の座標は $(-2, -2)$ で、
 y 軸と点 $(0, 2)$ で交わるから、
 グラフは右図のようになる。
- 
- (4) ① グラフが上に凸の放物線なので a は負
 ② y 軸との交点は $(0, c)$ で、グラフは y 軸と原点よりも下側で交わっているから c は負
 したがって ① - ② -
- (5) 2次関数 $y = (x-p)^2 + q$ のグラフの軸は、直線 $x = p$ なので $p = 3$
 したがって $y = (x-3)^2 + q$
 これが点 $(1, 0)$ を通るから
 $0 = (1-3)^2 + q$
 $q = -4$
 ゆえに $p = 3, q = -4$

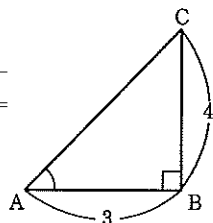
平成18年度 秋季県下一斉学力テスト **S I α** 解答 No. 3

[α-7] 図形と計量

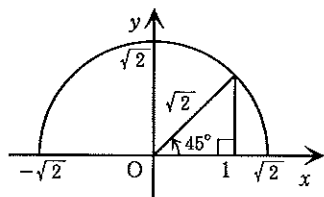
(正弦定理, 余弦定理, 図形の計量は除く)

(1) 図より

$$\tan A = \frac{BC}{AB} = \frac{4}{3}$$



(2)



上図より, $\theta = 45^\circ$

(3) $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ より

$$\left(\frac{2}{3}\right)^2 + \cos^2 \theta = 1$$

$$\cos^2 \theta = 1 - \left(\frac{2}{3}\right)^2 = 1 - \frac{4}{9} = \frac{5}{9}$$

$0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ だから $\cos \theta \geq 0$

$$\text{よって } \cos \theta = \frac{\sqrt{5}}{3}$$

(4) 右図において,

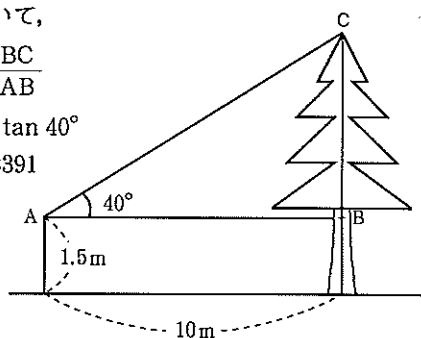
$$\tan A = \frac{BC}{AB}$$

$$BC = AB \tan 40^\circ$$

$$= 10 \times 0.8391$$

$$= 8.391$$

$$\approx 8.4$$



よって木の高さは $8.4 + 1.5 = 9.9$ (m)

(5) $\sin(90^\circ - \alpha) = \cos \alpha$ より

$$\sin 57^\circ = \sin(90^\circ - 33^\circ) = \cos 33^\circ$$

したがって $\sin 57^\circ$ と等しいものは (ウ)

[α-8] 場合の数と確率 (確率は除く)

$$(1) {}_6P_2 = 6 \times 5 = 30$$

(2) 5人全員が1列に並ぶ順列だから

$${}_5P_5 = 5! = 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1$$

$$= 120 \text{ (通り)}$$

(3) 7個の点から3個の点を選ぶ組合せだから

$${}_7C_3 = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 35 \text{ (個)}$$

(4) $54 = 2 \times 3^3$ であるから, 54の正の約数は, 2の正の約数のそれぞれと 3^3 の正の約数のそれぞれとの積で表される。

2の正の約数は, 1, 2の2個

3^3 の正の約数は, 1, 3, 3^2 , 3^3 の4個である。

したがって54の正の約数の個数は,

$$\text{積の法則により } 2 \times 4 = 8 \text{ (個)}$$

(5) $a a b b$ の並びかえだから, 同じものを含む順列の総数は,

$$\frac{4!}{2!2!} = 6 \text{ (通り)}$$

【参考】

実際に並べてみると次のようになる。

$a a b b$

$a b a b$

$a b b a$

$b a a b$

$b a b a$

$b b a a$

したがって 6 (通り)

[α-9] 方程式と不等式 ①

$$(1) (2x+1)(2x-1)(4x^2+1) \\ = (4x^2-1)(4x^2+1) \\ = (4x^2)^2 - 1^2 \\ = 16x^4 - 1$$

$$(2) x^3 - 11x^2 + 30x \\ = x(x^2 - 11x + 30) \\ = x(x-5)(x-6)$$

$$(3) 0.6x + 2 < 0.8x + 1 \\ \text{両辺を10倍して} \\ 6x + 20 < 8x + 10 \\ 6x - 8x < 10 - 20 \\ -2x < -10 \\ x > 5$$

$$(4) \sqrt{20} + \frac{20}{\sqrt{5}} - 3\sqrt{5} \\ = 2\sqrt{5} + \frac{20\sqrt{5}}{5} - 3\sqrt{5} \\ = 2\sqrt{5} + 4\sqrt{5} - 3\sqrt{5} \\ = 3\sqrt{5}$$

$$(5) x = 2 \text{ が2次方程式 } x^2 + x + a = 0 \text{ の} \\ \text{解であるから, } 2^2 + 2 + a = 0 \\ a = -6$$

したがって, 与えられた方程式は

$$x^2 + x - 6 = 0$$

$$(x+3)(x-2) = 0$$

$$x = -3, 2$$

よって, $x = 2$ 以外のもう1つの解は

$$x = -3$$

ゆえに

$$a = -6, \text{ もう1つの解は } x = -3 \quad \textcircled{5}$$

($a = -6$ ができて2点, 両方できて5点)

[α-10] 方程式と不等式 ②

$$(1) 4x(x-1) - 3x(2x-1) \\ = 4x^2 - 4x - 6x^2 + 3x \\ = -2x^2 - x$$

$$(2) x(x+1) + 2(x+1) \\ = (x+2)(x+1)$$

$$(3) \frac{1}{6}x + 1 > x - \frac{3}{2}$$

両辺を6倍して

$$x + 6 > 6x - 9$$

$$x - 6x > -9 - 6$$

$$-5x > -15$$

$$x < 3$$

$$(4) (2\sqrt{3}+1)(2\sqrt{3}+3) \\ = (2\sqrt{3})^2 + 2\sqrt{3} \times 3 + 1 \times 2\sqrt{3} + 1 \times 3 \\ = (2\sqrt{3})^2 + 6\sqrt{3} + 2\sqrt{3} + 3 \\ = 12 + 6\sqrt{3} + 2\sqrt{3} + 3 \\ = 15 + 8\sqrt{3}$$

$$(5) 3x^2 + 4x - 4 = 0 \\ (3x-2)(x+2) = 0$$

$$x = \frac{2}{3}, -2$$

$$\begin{array}{rcl} 3 & \times & -2 \rightarrow -2 \\ 1 & \times & 2 \rightarrow 6 \\ \hline & & 4 \end{array}$$

β 共通問題 方程式と不等式

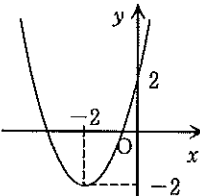
- (1) $(a-b+1)(a+b-1)$
 $= \{a-(b-1)\}\{a+(b-1)\}$
 $= a^2 - (b-1)^2$
 $= a^2 - b^2 + 2b - 1$
- (2) $xy - 3x + y^2 - 9$
 $= x(y-3) + (y+3)(y-3)$
 $= (y-3)(x+y+3)$
- (3) $\frac{x-1}{4} + \frac{2-x}{3} \geq 1$
 両辺に 12 をかけて
 $3(x-1) + 4(2-x) \geq 12$
 $-x + 5 \geq 12$
 $x \leq -7$
- (4) $\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{5}+\sqrt{3}} + \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{5}-\sqrt{3}}$
 $= \frac{\sqrt{2}(\sqrt{5}-\sqrt{3}) + \sqrt{2}(\sqrt{5}+\sqrt{3})}{(\sqrt{5}+\sqrt{3})(\sqrt{5}-\sqrt{3})}$
 $= \frac{2\sqrt{10}}{2} = \sqrt{10}$
- (5) $3a^2 \times (-2ab^2)^3 \times a^3b$
 $= 3a^2 \times (-8a^3b^6) \times a^3b$
 $= -24a^8b^7$
- (6) $2x^2 + 8x + 3 = 0$ より
 $x = \frac{-4 \pm \sqrt{4^2 - 2 \cdot 3}}{2} = \frac{-4 \pm \sqrt{10}}{2}$
- (7) $x = 1 + \sqrt{3}$ を与式に代入すると,
 $(1 + \sqrt{3})^2 - 2\sqrt{3}(1 + \sqrt{3}) + a = 0$ より $\triangle$
 $a = 2$ $\triangle$
 よって、与式は
 $x^2 - 2\sqrt{3}x + 2 = 0$
 これを解いて
 $x = \sqrt{3} \pm \sqrt{3-2} = \sqrt{3} \pm 1$ $\triangle$
 したがって、もう 1 つの解は $\sqrt{3} - 1$
 以上により $a = 2$, もう 1 つの解は $\sqrt{3} - 1$ $\textcircled{10}$

(8)(i) $x < 1$ のとき
 $x-1 < 0, x-4 < 0$ より
 $|x-1| + |x-4| = -(x-1) - (x-4)$ $\triangle$
 $= -2x + 5$ $\textcircled{5}$

(8)(ii) $1 < x < 4$ のとき
 $x-1 > 0, x-4 < 0$ より
 $|x-1| + |x-4| = (x-1) - (x-4)$ $\triangle$
 $= 3$ $\textcircled{5}$

β 選択問題

[β-1] 2次関数

- (1) $y = (x+2)^2 - 2$ のグラフの
 頂点の座標は $(-2, -2)$ で
 y 軸と点 $(0, 2)$ で交わるから
 求めるグラフは右図のように
 なる。
- 

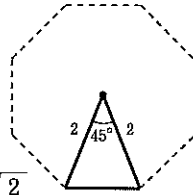
- (2) $y = x^2 + 5x + m$ のグラフが x 軸と接するには
 $D = 0$ となればよいから
 $5^2 - 4m = 0$
 よって、 $m = \frac{25}{4}$

- (3) $x^2 - 3x - 5 > 0$
 $x^2 - 3x - 5 = 0$ とおくと
 $x = \frac{3 \pm \sqrt{(-3)^2 - 4 \cdot (-5)}}{2} = \frac{3 \pm \sqrt{29}}{2}$
 よって、 $x < \frac{3 - \sqrt{29}}{2}, \frac{3 + \sqrt{29}}{2} < x$

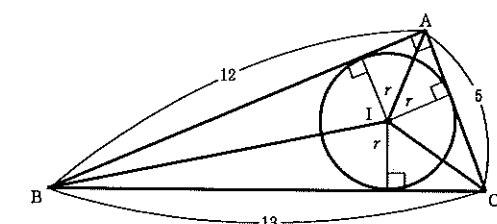
- (4) 2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ において,
 3点 $(0, 2), (1, 4), (4, -2)$ を通るから
 $\begin{cases} 2 = c & \dots\dots \textcircled{1} \\ 4 = a + b + c & \dots\dots \textcircled{2} \\ -2 = 16a + 4b + c & \dots\dots \textcircled{3} \end{cases}$
 $\textcircled{1}, \textcircled{2}, \textcircled{3}$ より
 $a = -1, b = 3, c = 2$

- (5) $y = 2x^2$ のグラフを x 軸方向に k
 y 軸方向に 5 だけ平行移動させた
 グラフを表す 2 次関数は
 $y = 2(x-k)^2 + 5$ とかける。
 これが点 $(1, 13)$ を通るので
 $13 = 2(1-k)^2 + 5$
 これを解いて $k = 3, -1$

[β-2] 図形と計量

- (1) 求める正八角形の面積は,
 右図の実線の三角形の面積を
 8 倍して得られるから
- 
- $8 \times \left(\frac{1}{2} \times 2 \times 2 \times \sin 45^\circ \right) = 8\sqrt{2}$
- (2) 1 回転させてできる立体は、底面が半径 5 の円で、
 高さが 12 の円すいであるから、
 求める体積は
 $\frac{1}{3} \cdot \pi \cdot 5^2 \cdot 12 = 100\pi$
- (3) $\triangle CDB$ において
 $\tan 45^\circ = \frac{3}{DB}$ より
 $DB = 3$
 $\triangle ABC$ において
 $\tan 30^\circ = \frac{3}{AB}$ より
 $AB = 3\sqrt{3}$
 よって
 $AD = AB - DB = 3\sqrt{3} - 3$
- (4) $AB = CD = 3, \angle BCD = 120^\circ$
 $\triangle BCD$ に余弦定理を用いて
 $BD^2 = BC^2 + CD^2 - 2 \cdot BC \cdot CD \cdot \cos \angle BCD$
 $= 5^2 + 3^2 - 2 \cdot 5 \cdot 3 \cdot \cos 120^\circ$
 $= 49$
 $BD > 0$ より $BD = 7$

- (5) $\triangle ABC$ において、底辺を AB と考えると、
 高さは CA であるから、その面積は
 $\triangle ABC = \frac{1}{2} \times 12 \times 5 = 30 \dots \textcircled{1}$
 一方、内心を I , 内接円の半径を r とすると、



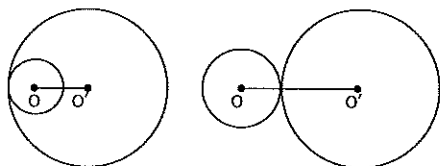
$\triangle ABC = \triangle IBC + \triangle ICA + \triangle IAB$
 $= \frac{1}{2} \times 13 \times r + \frac{1}{2} \times 5 \times r + \frac{1}{2} \times 12 \times r$
 $= 15r \dots \textcircled{2}$
 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ の値が等しいから
 $15r = 30$
 よって $r = 2$
 ゆえに、求める内接円の半径は $\underline{2}$

[β-3] 平面図形

- (1) $\triangle ADE \sim \triangle ABC$ であり、その面積比は $3^2 : 5^2$
 よって $\triangle ADE$ と台形 $DBCE$ の面積比は
 $3^2 : (5^2 - 3^2) = 9 : 16$
- (2) AE に補助線を引く
 円周角の定理より、
 $\angle EAD = \angle EBD = 35^\circ$
 $\angle AEB = \angle ADB = 30^\circ$
 $\triangle ACE$ の内角の和が 180° であることから
 $\angle EAD + \angle CAD + \angle ECA + \angle CEB + \angle AEB = 180^\circ$
 $35^\circ + 40^\circ + 30^\circ + \alpha + 30^\circ = 180^\circ$
 よって、 $\alpha = 45^\circ$
- (3) $CP = x$ とおけば、方べきの定理より
 $5x = 4 \times 3$
 よって $x = \frac{12}{5}$

- (4) $\angle ABC = 2\angle IBC$, $\angle ACB = 2\angle ICB$
 $\triangle ABC$ の内角の和が 180° であることより
 $50^\circ + 2(\angle IBC + \angle ICB) = 180^\circ$
 $\angle IBC + \angle ICB = 65^\circ$
 $\triangle IBC$ の内角の和が 180° であることより
 $\alpha + \angle IBC + \angle ICB = 180^\circ$
 $\alpha = 180^\circ - 65^\circ = \underline{115^\circ}$

- (5) $(3r-r) < 12 < (3r+r)$
 すなわち $2r < 12 < 4r$
 が成り立てばよい。
 $2r < 12$ より $r < 6 \dots \textcircled{1}$
 $12 < 4r$ より $3 < r \dots \textcircled{2}$
 よって、 $\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ をともに満たす r の値の範囲は
 $\underline{3 < r < 6}$



[β-4] 集合と論理

- (1)
 $\underline{A \cup B = \{1, 3, 5, 6\}}$
- (2) $P = \{x | 0 < x < 2\}$
 $Q = \{x | -3 < x < 3\}$ とおくと $P \subset Q$
 よって $0 < x < 2$ は $-3 < x < 3$ であるための
 十分条件であるが必要条件ではない。よって、(イ)
- (3) (ア) は「 $x = 0$ かつ $y = 0$ 」
 (イ) は「 $x = 0$ または $y = 0$ 」
 (ウ) は「 $x = 0$ または $y = 1$ 」
 (エ) は「 $x = 0$ かつ $y = 0$ 」
 よって、(ア) と (エ)

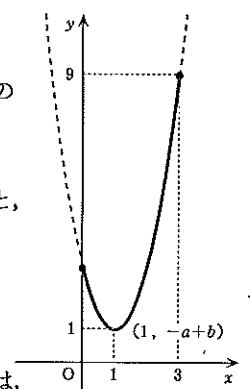
- (4)
 生徒全体の集合を U ,
 国語が 70 点以上の生徒
 の集合を A , 数学が 70
 点以上の生徒の集合を
 B とする。国語または
 数学で 70 点以上の生徒
 は $40 - 15 = 25$ (人)
 よって国語も数学も 70 点以上の生徒は
 $(13 + 17) - 25 = 5$ (人)
 よって国語が 70 点未満かつ数学が 70 点以上
 の生徒は $17 - 5 = \underline{12}$ (人)
- (5) 「 m または n が偶数ならば、 mn は偶数である。」
 また、その真偽は 真

[β-5] 場合の数と確率

- (1) 大きいさいころの目が a , 小さいさいころの目が
 b のとき, (a, b) と表すことにすると出る目の和
 が 7 になる場合は
 $(1, 6), (2, 5), (3, 4), (4, 3), (5, 2), (6, 1)$ の
6 通り
- (2) 百の位は 4, 5, 6 の 3 通り
 十の位と、一の位は残り 5 つの数字から 2 つ
 選んで並べる順列であるから ${}_5P_2$ 通り
 よって $3 \times {}_5P_2 = \underline{60}$ (個)
- (3) $\frac{{}_6C_2 \times {}_4C_1}{{}_{10}C_3} = \underline{\frac{1}{2}}$
- (4) それぞれの目が出る確率は下の表のようになる
- | 目 | 1 | 2 | 3 | 5 |
|----|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 確率 | $\frac{1}{6}$ | $\frac{1}{2}$ | $\frac{1}{6}$ | $\frac{1}{6}$ |
- よって求める期待値は
 $1 \times \frac{1}{6} + 2 \times \frac{1}{2} + 3 \times \frac{1}{6} + 5 \times \frac{1}{6} = \underline{\frac{5}{2}}$
- (5) a^5b^3 の項は二項定理より
 ${}_8C_5(2a)^5b^3 = 56 \cdot 32a^5b^3 = 1792a^5b^3$
 よって、求める係数は 1792

[β-6] 2次関数 (2次不等式は除く)

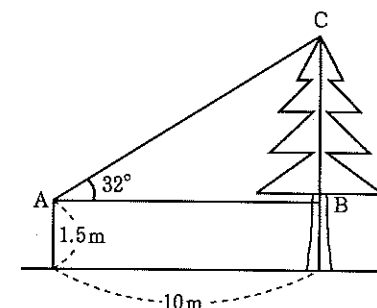
- (1) $y = x^2 + 3x + 1$
 $= \left(x + \frac{3}{2}\right)^2 - \frac{5}{4}$
 よって、グラフの頂点の座標は $\left(-\frac{3}{2}, -\frac{5}{4}\right)$
- (2) 2次関数 $y = (x-p)^2 + q$ のグラフの軸は、
 直線 $x = p$ なので $p = 3$
 したがって $y = (x-3)^2 + q$
 これが点 $(1, 0)$ を通るから
 $0 = (1-3)^2 + q$
 $q = -4$
 ゆえに $\underline{p = 3, q = -4}$
- (3) グラフが上に凸の放物線なので $a < 0$
 y 切片が負なので $c < 0$
 $x = 1$ のとき $y < 0$ より $a + b + c < 0$
 よって ① - ② - ③ -
- (4) グラフの頂点の座標は $(5, 3)$ だから、
 移動後の頂点の座標は
 $(5+1, 3-2) = (6, 1)$
 よって、求める 2次関数は
 $y = -(x-6)^2 + 1$
 $[y = -x^2 + 12x - 35 \text{ も可}]$
- (5) $y = ax^2 - 2ax + b$
 $= a(x-1)^2 - a + b$
 したがって、この 2次関数の
 グラフの軸は直線 $x = 1$,
 頂点は点 $(1, -a+b)$
 である。 $a > 0$ であることと、
 $0 \leq x \leq 3$ における
 最大値が 9, 最小値が 1 で
 あることから、グラフは
 右図のようになる。
 したがって、この 2次関数は、
 $x = 3$ のとき、
 最大値 9 をとるから
 $a \cdot 3^2 - 2a \cdot 3 + b = 9$
 よって $3a + b = 9 \dots \textcircled{1}$
 $x = 1$ のとき、最小値 1 をとるから
 $-a + b = 1 \dots \textcircled{2}$
 ①, ② より $\underline{a = 2, b = 3}$



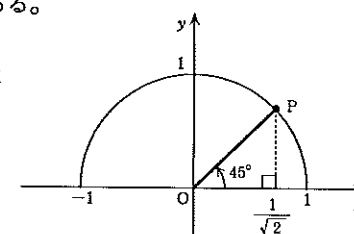
[β-7] 図形と計量

(正弦定理, 余弦定理, 図形の計量は除く)

- (1) 下図において, BC の長さを小数第 2 位で四捨五
 入して小数第 1 位まで求めると
 $BC = AB \tan 32^\circ$
 $= 10 \times 0.6249 = 6.249 \div 6.2$
 よって、木の高さは $6.2 + 1.5 = \underline{7.7}$ (m)



- (2) 単位円の周上で, x 座標が $\frac{1}{\sqrt{2}}$ となる点は、
 図の点 P である。
 したがって、
 求める角 θ は
 $\underline{\theta = 45^\circ}$



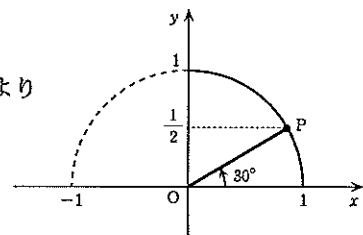
- (3) $(3 \sin \theta - 4 \cos \theta)^2 + (4 \sin \theta + 3 \cos \theta)^2$
 $= 9 \sin^2 \theta - 24 \sin \theta \cos \theta + 16 \cos^2 \theta$
 $+ 16 \sin^2 \theta + 24 \sin \theta \cos \theta + 9 \cos^2 \theta$
 $= 25(\sin^2 \theta + \cos^2 \theta) = \underline{25}$
- (4) $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ より
 $\cos^2 \theta = \frac{1}{1 + \tan^2 \theta} = \frac{1}{5}$
 $\sin^2 \theta = 1 - \cos^2 \theta = \frac{4}{5}$
 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の範囲では $\sin \theta \geq 0$ であるから
 $\sin \theta = \underline{\frac{2\sqrt{5}}{5}}$

(5) $4 \sin^2 \theta - 4 \sin \theta + 1 = 0$ より,
 $(2 \sin \theta - 1)^2 = 0$

$$\sin \theta = \frac{1}{2}$$

$0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ より

$\theta = \underline{\underline{30^\circ}}$



[$\beta-8$] 場合の数と確率 (確率は除く)

(1) $n(n-1) = 56$ より $n^2 - n - 56 = 0$
 $(n-8)(n+7) = 0$
 $n > 0$ より
 $n = \underline{\underline{8}}$

(2) $108 = 2^2 \times 3^3$
 よって正の約数の個数は $3 \times 4 = \underline{\underline{12}}$ (個)

(3) 先に男子を座らせて、女子を残りの6つの場所に自由に座らせる。これは6人を1列に並べる順列と等しいので $6! = \underline{\underline{720}}$ (通り)

(4) 図の上で、右に進むことを $\rightarrow$ 、上に進むことを $\uparrow$ で表すと、AからCに最短距離で行く経路の総数は、3個の $\rightarrow$ と、4個の $\uparrow$ を1列に並べる順列の総数に等しい。
 したがって、その総数は $\frac{7!}{3!4!} = 35$ (通り)

そのそれぞれについて、CからBまで最短距離で行く経路の総数は、上と同様に考えて

$$\frac{4!}{2!2!} = 6 \text{ (通り)}$$

ずつある。したがって、求める最短距離の総数は、積の法則により $35 \times 6 = \underline{\underline{210}}$ (通り)

(5) 底面の色を決める方法は5色から1色選ぶので5通り。
 残り4面の塗り方は残りの4色で塗り分ける円順列であるから $3!$ 通り。
 よって $5 \times 3! = \underline{\underline{30}}$ (通り)